



# たけが 市民の友

第634号 毎月1回発行  
2003年(平成15年)  
11月

* 内はうち外国人	
2003(平成15)年9月末現在	
総人口	309,719(1,904)
男	149,879(958)
女	159,840(946)
世帯数	122,161(1,122)
住民基本台帳人口の内訳(外国人を除く)	
本庁	88,359
真和志	105,590
首里	58,735
小祿	55,131

発行●那覇市 編集●秘書広報課  
〒900-8585 那覇市泉崎1丁目1番1号  
☎ 867-0111 ●印刷(協)丸正印刷



## くらしの安全、守ります。



新都心地区に消防庁舎が完成しました。

那覇市の防災の拠点となる消防庁舎が、去る10月24日、那覇新都心地区に竣工しました。

新しい消防庁舎が整備されたことで、これまで分散配置されていた消防本部の機能が集約され、さまざまな災害に対し、より迅速な対応が可能になります。

すべての市民が利用できるようにバリアフリーが施され、雨水・再生水、深夜電力の利用、屋上緑化など省エネルギー対策や環境共生にも配慮した4階建の消防庁舎は、1・2階が消防署、3・4階は消防本部の各課を配置、3階には救急救命講習や防火管理者講習などに対応できる160人収容の講堂も設けられ、災害を想定した訓練ができる訓練棟が併設されました。

また複雑多様化する各種の災害に対応するため、近く最新型コンピュータを駆使した消防緊急指令システムも整備されます。

民間企業により建設され、那覇市が借り受けるリースバック方式で整備された庁舎は、10年間のリース期間満了時には市民の財産として那覇市に無償で譲渡されます。

この手法の採用で、コスト削減を図り、地元企業の活力をうながすことができました。

新消防庁舎の完成を機に、那覇市の消防職員は、新たな決意でこれからも市民のみなさんのくらしの安全を守ります。

- 主な紙面**
- (2) 県内自治体初、ISO14001認証取得
  - (3) 那覇まつり、組踊り、観光船年
  - (4) 4面5面を大幅に、拓こう自分「なげよ心まなび」アソビ2003 in 那覇
  - (6) 11月9日県議院議員総選挙の投票日
  - (7) 情報PACOK

## 市長談 TAIDAN ⑧



**寺田 麗子**  
(環境ジャーナリスト)

1949年那覇市牧志生まれ。東洋大学中退。73年沖縄テレビ入社。ニュースキャスターの傍ら「川は新える」など独自企画を展開。03年7月退職。現在、玉水ネットワーク副代表(河川団体)、那覇市一般廃棄物審議員ほか多数の行政審議員などを務める。

### 自治体は哲学と自信を

翁長雄志市長 以前、寺田さんに「来年の1月までに10%のゴミ減量を達成する」と答えてしまい、それが、功を奏して10月現在で22%の減少になっていますよ。

寺田 麗子さん すいぶん頑張りましたよね。ごみの問題に関しては、ほんとうに進展しました。市民の一人として謝します。

市長 寺田さんにほめられるとうれしいです。

寺田 最近、スウーデンで各自治体の取り組みを見てきたのですが、市の組織にある「ゼロエミッション推進室」のような部署を中心に、交通形態、経済対策、都市計画すべてを機能させ、素晴らしいまちづくりができることを学びました。自治体が哲学を持ち、自信をもって展開しています。さらに、住民とどうしがまちづくりについて話しあい、積み上げた案を行政に提示し、行政はそれに予算をつけていくのです。だから、市民は自覚を持ち、責任感があります。

市長 ゼロエミッション推進室をつくったことで、市民や職員の意識は、変わったのではないかと思います。

最終的には、スウーデンのような市民参加を目標にしたいですね。今、那覇の下水処理



場から出る1日、13万トンのきれいな水を金城ダムにポンプアップして都市河川の維持用水(生物が住む最低限必要な水量など)や、新都心で利用している中水道のように、雑用水として利用できます。

寺田 その計画は反対です。下水処理水のポンプアップは管を敷設する作業や水を河川の上流に押し上げるエネルギーが必要で、合併浄化槽を上流に住む各家々につけたほうが、はるかに経済的です。

市長 中水道がダムならダムを作らなければいいのですか。

寺田 今後はダムは建設しない方向で考えないと、ヤンバルの環境は全てダメになります。かわりに、各家庭にダムを作る。つまり雨水タンクの利用です。大災害時には、確実にヤンバルからの水は止まります。危機管理の環としても雨水タンクの利用で、自立する「まち」になると思います。

市長 寺田さんに話してよかった！ これからも良い意見を聴かせてください。